

開催日：3月31日 開催場所：ツインリンクもてぎ南コース 格式：国内
主催：SHAKE DOWN [クラブ登録No.加盟09020]、株式会社モビリティランド [団体登録No.公認24001]

フォト／滝井宏之、JAFスポーツ編集部 レポート／JAFスポーツ編集部

第2ヒートのゴール直後に「いやーもう限界!」と悲鳴をあげたPN4茅野成樹選手。ライン取りや路面の把握が難しいもてぎ南のコースに翻弄されつつも、しっかりと解決策を見出して連勝をゲット。



PN4 茅野成樹選手が“難解”なもてぎ南を逆転で攻略!

全 10戦で争われる全日本ジムカーナ選手権は、3月末に早くも第2戦が開催。その舞台は2年ぶりの復活となるツインリンクもてぎ南コースだ。

このコースは平坦な広場を使った関東名物のパイロンジムカーナなのだが、敷地が広大過ぎて次のパイロンが霞むほどのハイスピードコースでもある。しかも、コースの中央部がやや盛り上がっていることから、その起伏を考慮したライン取りが攻略のカギとなっている。

シリーズ10戦の影響から台数減少が心配されたが、激戦区の関東開催ということで選手権クラスだけで111台のエントリーを集めた。

決勝コースレイアウトは、広大なもてぎ南を

隅々まで使った設定で、普段は走らない「コースの端」に、下り傾斜のパイロンターンを置いたり、高速コーナーの立ち上がりに使ったりと、かなりチャレンジングな設定が採用された。

PN4は、これまで茅野成樹選手と野島孝宏選手によるベテラン対決が続いてきたが、今大会には19歳の新星・奥井優介選手が父の奥井毅選手とダブルエントリーしたり、二木達也選手と射場亮輔選手がGVB WRX STIでダブルエントリーしてくるなど、ニューフェイスを含めた10名による戦いとなった。

決勝日は前夜に降った雨の影響でウェット路面でスタートした第1ヒート。日照はなかったものの路面は徐々にドライへと変わっていた。

PN4は1分30秒台の戦いを奥井優介選手と射場選手が1分29秒台に引き上げたが、野島選手は1分25秒963で暫定ベストを計測。続く茅野選手は1分26秒664で2番手に続いていた。

第2ヒートは、出走直前に集中豪雨があり「すわ“1本目勝負”か」と思われたものの、短い雨が止むと同時に強い日差しが降り注ぎ、路面はどんどん乾いていった。そのため各クラスでは第2ヒートの逆転劇が展開された。

PN4では射場選手とダブルエントリーの二木選手が1分29秒台で入賞圏内に入ってきた。そして、若手期待の奥井優介選手は何と1分26秒735を叩き出して、3番手に浮上してきた。

野島選手は1分25秒277で自己タイムを更

PN4 / 1.PN4表彰台。2.野島孝宏選手がコンマ1秒差の2位。3.若手期待の19歳、奥井優介選手が3位表彰台。トップ2強に約1.5秒差に迫った。4.二木達也選手が4位。5.射場亮輔選手が5位。 SA3 / 6.西森顕選手がブツぎりの2連勝。今回のコースについては「狙った通りの走りが出て良かったです。ストレートに向けてどれだけ車速を上げられるか、そしてスラローム立ち上がりでどれだけ踏めるかがポイントだったと思うので、それぞれ進入と脱出で使えるコース幅をしっかりと意識して、車速を乗せることができたと思います」と自己分析。7.渡辺公選手が2位。8.エキシージの久保真吾選手が僅差の3位に。



新して逃げ切り体制を敷いたが、最終走者の茅野選手は何と1分25秒150で逆転。茅野選手が連勝を飾り、タイトル争いをリードした。

「2本目は路面は濡れている所と半乾きが交互に出てきましたね。でも、今回はそれはあまり問題じゃなくて、実は金曜日から今日の1本目まで、コースの半分以上のエリアで走らせ方がまるで分からなかったんです(笑)。

それで、ライバルの野島選手の走りをコピーさせてもらって。野島選手がサイドを使った所はグリップで行くと決めていたので、違うのはそこぐらい。実はコースも一瞬見失ったので、コンマ差のロスに抑えられたのは幸運でした。

このランサーはトラクションを優先して、リアが出ない仕様なので、今回野島選手の走りをコピーするためにリアを少しスアにしました。

第4戦のタマダはこういう仕様が必須なので、悩み抜いたおかげで、いい発見ができました」。

と語る茅野選手。ライバルの走りを研究して、円熟の走りにさらなる磨きをかけてきた。

そして、足回りのセットアップを野島選手のクルマ作りから学ぶ奥井優介選手が、最速の2人の1秒以内に迫ってみせたのも特筆ポイント。PN4の“二強”にどう対抗していくのが注目だ。



SA1 / 9.SA1はCR-X勢が表彰台を独占。近藤岳士選手(中)が優勝。2位は合田尚司選手(右)、3位は小武拓矢選手(左)。10.優勝の近藤選手は「路面状況が不安だったので1本目は探りながらの走りでした。でも2本目は『完全ドライだ!』と言い聞かせて開き直って走ったら、いいタイムが出せました」と笑顔。11.合田選手は今季からCR-Xを投入。SA2 / 12.高江淳選手が開幕2連勝。「日曜にベストな走りができるように、金曜から走りを組み立てて、決勝は2本とも完璧なレース運びができました。ゴール直後の動きまで完璧にできたと思います(笑)」とチャンピオンらしい横綱相撲を披露。13.2位は西井将宏選手。14.3位は半谷信治選手。



PN1 / 15.優勝は小侯洋平選手。「走りは1本目の方が良かったですし、雨が降ると勝った気になっちゃうので、自分とのシビアな戦いでした。案の定、小林選手が抜いてきたので、2本目は力が入ってミスも多かったです」と連勝でも反省。16.2位は小林規敏選手。17.上野健司選手が3位。PN2 / 18.2位は山野直也選手。19.3位は稲木亨選手。20.PN2表彰台。「もてぎ南は124スパイダーをデビューさせた場所で、その2年前は9位。自分にとってホーム

コースでもあるので、今回優勝でリベンジできたのは大きかったね」とは連勝の山野哲也選手。PN3 / 21.優勝はユウ選手(中)。「1本目のミスコースは余計でした(笑)。2本目勝負だと思っていたので直前の大雨はヒヤッとしました。今回のコースは“端”の攻略がキモだったので、ウェット路面には苦労しましたね」と苦笑い。22.西野洋平選手はコンマ3秒差の2位。23.ロードスター RFを駆る磯野剛治選手が殊勲賞の3位。



SA4 / 24.優勝は菱井将文選手。ライバル津川信次選手に対しては「もつと離せろと思っていた、前半で抜かれて後半で巻き返して、最後は一緒だった。勝ったのは嬉しいけど、失敗したなというのが正直な感想で、もうちょっと待てよ!という感じじゃね(笑)。25.津川信次選手は2位。26.坂飯忠司選手が3位。SC / 27.SC表彰台。優勝は西原正樹選手だが「開幕戦のエンジントラブルの影響が残って、ある一定条件がダメだったので辛い戦いではあったね。今回のコースは距離が足りていたので何とか耐えたけど、タイヤが265/35サイズだと厳しかったかもしれないね」と微妙な表情。28.2位は大橋渡選手。29.開幕戦の勝者・野尻隆司選手が3位。